

2019年 4月20日
NPO法人 森を再生する会

水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

— 目 次 —

・あいち森と緑づくり事業税と森林環境税	1 P
・平成30年度の活動概要	2 P
・会員の声	4 P

・こぼれ話	5 P
・森林環境税はなぜ必要か	6 P
・平成30年度活同計画	6 P
・寄付のお礼	6 P

あいち森と緑づくり事業税と森林環境税

神谷輝幸

私たちは、愛知県からあいち森と緑事業税による助成金を受けて活動しています。この事業は令和元年から、第2期目の事業として継続されます。助成金の対象も本年度からは単なる人工林の間伐や植樹は除外されることになりました。

「あいち森と緑づくり事業税」と「国の森林環境税」は県税と国税の二重徴収ではないかと疑問が投げかけられていました。「国の森林環境税」は、全国の人工林が放置されたままで、生産林としてよい材木が育たない危機感から生まれたものです。そこで、国が税金を投入して、間伐をすすめることを主な目的としています。

そこで「あいち森と緑づくり事業税」の用途は、「国の森林環境税」と差別化を図るために「生物の多様性や生態系を重視した森づくり」、「自然環境学習のための自然観察会」などの事業に助成することになりました。

私たちは当初から、土地本来の広葉樹に林宗転換するためにスギ・ヒノキを間伐しブナ、ミズナラ、トチノキ、ホウノキなどの広葉樹に覆われた水源の森づくりを行ってきました。「あいち森と緑づくり事業税」の目的と一致したものと認識しています。

今後も水源の森づくりを着実に進めていきましたよう！

平成 30 年度の活動概要

写 真	内 容
	<p>行事名：間伐 日時：平成30年4月29日 8：30-16：30 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：13名</p>
	<p>行事名：間伐 日時：平成30年5月24日 8：30-16：30 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：11名</p>
	<p>行事名：間伐 日時：平成30年6月24日 8：30-16：30 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：10名</p>
	<p>行事名：間伐指導 日時：平成30年7月22日 8：00-17：00 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：11名</p>
	<p>行事名：自然観察会 日時：平成30年7月29日 8：00-17：00 場所：愛知県北設楽郡設楽町西納庫字沖ノ平 2-2 参加者数：19名</p>
	<p>行事名：間伐材搬出 日時：平成30年8月4日 8：00-15：00 場所：設楽町西納庫参、参加7名</p>

写 真	内 容
	<p>行事名：植樹準備 日時：平成30年8月26日 8：30-17：00 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：9名</p>
	<p>行事名：植樹・防護ネット設置、竹酢液散布 日時：平成30年9月23日 8：30-17：00 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：23名</p>
	<p>行事名：植樹・防護ネット設置、竹酢液散布 日時：平成30年10月28日 8：30-17：00 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：23名</p>
	<p>行事名：間伐 日時：平成30年11月25日 8：30-16：30 場所：北設楽郡設楽町大字西納庫字下山17番地 参加者数：15名</p>
	<p>行事名：まな板づくり 日時：平成30年12月2日 8：30-16：30 場所：愛知県安城市東新町 杉浦建築 参加者数：2名</p>

会員の声

山作業の思い出

秋の植樹祭

長澤勇吉

植樹の準備の苦労

平成30年10月28日、年1回の植樹の日。前日の雨で天候の心配をしていましたが、今日は快晴。4月から植樹のための間伐作業開始から6ヶ月、今日の日を迎え、ほっとした気分です。思えば先月9月23日に、駐車場から、山のふもとへの道路脇の雑草と枝木を切り、道路の穴にみんなで石を運んで、道普請までしました。設楽町の役場に道路修理を頼みましたが大雨であちこち道路修理しなくてならなくて予算がないということでしたので、会員で直しました。

その後、大雨の被害があり、せっかく先月、養生したのに道が大きくえぐられて、軽トラックが立ち往生、荷台から下りて、押して何とか難所を切り抜けた。四輪駆動の西川さんの軽トラの威力を知りました。

楽しめる森に

今年は、メープルシロップがとれるカエデを20本植樹しました。鹿の食害予防(カエデが大好物)に防護ネット(グリーンガード)を設置しました。今回の植樹は、苗木にそれぞれ、植えた人と樹種の名前を書き、そして名札の裏に、「願いごと」を書き込んでもらいました。

食事の楽しみ

植樹のあとはいつものように、アグリステーションで昼食をとりました。地元のおばさん手作りの五平餅・ソバ定食を大変おいしくいただきました。食後は地元産のコーンスープをいただき大変美味しかったです。食事の時間も毎年楽しみにしています。

水源の森づくり講演会

食事後、吉野さんから静岡県における森づくりの講話をいただきました。私たちの取り組みと同様な実践報告は参考になりました。

最後に、参加者にヒノキのまな板のプレゼントがあり参加者ご満悦の様子。バス乗車前に、売店で家族への買い物を楽しんでいました。

今回、植えたカエデから「メープルシロップ」採集可能になる10年後に思いをはせ帰路につきました。皆さんそれまでお元気で！

こぼれ話

その1

会員である佐野朋子さんから、ヒノキのまな板が欲しいという連絡を受けましたので、早速お届けしました。ずっと以前から本会の会員となっていてくださっている方です。早速、31年度分（令和元年分）の会費を振り込んでいただきましたので、お礼の電話を差し上げました。すると、こんなことを話されました。

「設楽町西川（故斎藤和彦さんの山）で植樹に参加した小学生だった息子も成長しました。植樹の日は雨が降っていましたが良い思い出になりましたよ。今年、大学に合格し下宿生活を送ることになりましたので息子にマナ板も必要だよね！と話し、持たせることにしました。」とのこと。

息子さんがマナ板を見てときどき山を思い出していただけた幸いです。大学入学を祝うとともに、親元を離れても健康で学業に励まれることを祈っています。

その2

親子4人でたびたび自然観察会や植樹に参加されていた渡邊さん一家が「九州福岡へ転居することになりました、」と挨拶に来られました。少し涙ぐんでおられる姿から良い思い出をもって親のいる九州へ戻られるのだなと熱いものを感じました。自然に接する中で3人の子供さんも優しい心を持ってすくすくと育っていかれることが感じられる家族でした。新しい土地で幸せな出会いがあることを祈っています。お元気で、また逢う日まで。

森林環境税はなぜ必要かー2024年から一人1,000円徴収

山崩れは人災

このところ毎年、集中豪雨が日本列島を襲い、各地で山崩れが起き、大きな犠牲者が出ています。これは天災というより人災です。それはなぜか？

第二次世界大戦後、復興のため、燃料やスギ・ヒノキの建築材が不足し、山の木々は伐採されました。建築材の需要も高まり、昭和35年あたりから、政府は拡大造林計画を打ち出し、国を挙げてスギ・ヒノキの植林を奨励しました。

ところが、昭和40年になると安価な外国の木材が輸入されるようになり、国産の材木は価格も暴落し、売れなくなりました。

山の人たちは、木材を育てるのに40年以上かかり、先祖が植え育てた木を切って売るとい生活です。かつて山村の人々は、里山の葉っぱを農業に生かしたり、薪にしたり、炭焼きをして生活をつないで生活していました。

石油石炭の燃料革命以後、天然資材である間伐材は需要もなくなり、売れなくなりました。山の仕事もなくなり生活できない山村の人々は都市へ移住するようになりました。その結果、スギ・ヒノキの山は間伐されない放置林になっています。

放置林が引き起こす災い

スギ・ヒノキの放置林は密植して植えてありますので、間伐や枝打ちしなければ光が差し込まず林内は暗くした草が生えません。山の表面を覆う草や広葉樹がなければ、表土は雨が降ると洗われ山の土は削られます。スギ・ヒノキの根っ子が現れ、谷筋に植えられたスギ・ヒノキは大雨の水で倒れ、流され、沢筋から山は崩れます。この現象は「沢抜け」と言われ、毎年各地で発生しています。



森林環境税の使い道

この放置林を間伐し健全な山に戻すために税金を投入します。山村人口の減少、高齢化で山主に力がありませんから、山村の自治体に委託し、スギ・ヒノキの間伐や枝打ちを進めるといふものです。この事業税がうまく働かずかわからないところがありますので、納税者である国民一人ひとりが注視していくべきだと思います。

令和元年度水源の森づくり活動計画

- 4月28日(日)間伐(納庫水源の森)
- 5月26日(日)間伐(納庫水源の森)
- 6月23日(日)間伐(納庫水源の森)
- 7月28日(日)「千年の森」自然観察会(設楽町)
- 8月3日(土)搬出(納庫水源の森)「グリーンそう」と共催
- 8月25日(日)間伐(納庫水源の森)
- 9月22日(日)間伐(納庫水源の森)
- 10月27日(日)植樹&獣害防止ネット設置
- 11月24日(日)ドングリ蒔き、間伐材搬出
- 12月1日(日)間伐材加工体験・まな板など

☆30年度 NPO森を再生する会へ寄付をいただいた方☆

次の方からご寄付をいただきました。

坂田成夫様 8,000円
神谷 守様 3,000円

深く感謝申し上げます、山を購入する基金として積み立ててまいります。